

きずな

発行 綾部市教育委員会教育部社会教育課

電話 0773-42-4326

E-mail shakaikyoiku@city.ayabe.lg.jp

世界でも認められる

非認知能力の大切さ!



非認知能力とは

コミュニケーション能力や自尊心、社会性など数値で示すことが困難とされる力のこと

近年、よりよく生きることを「ウェルビーイング」と表現することがあります。これは、個人の心身や経済的、社会的な健康を含んだ考え方で、2015年の国連サミットで採択されたSDGsの目標の一つにも掲げられています。また、2021年の国家戦略「骨太の方針」にも「ウェルビーイング」の実現を目指すという文言が盛り込まれています。

この「ウェルビーイング」を実現するために必要となる力が、非認知能力です。お子さんがよりよく生きていくために、非認知能力は大切な力となります。

非認知能力

「自分と向き合う力」

自制心 忍耐力
レジリエンスなど



今回は、非認知能力の一つである「自分と向き合う力」の中の、レジリエンスの大切さについて紹介します。

レジリエンスとは「回復力」「復元力」「弾力」などと訳される言葉で「困難をしながらに乗り越える力」のこと

「自分を高める力」

意欲・向上心
自尊感情楽観性など

「他者につながる力」

コミュニケーション力
共感性 協調性など

～「目標を達成する力」を
伸ばすために～

レジリエンスが
必要！

目標を達成するには、物事をやり抜く力が必要です。しかし、やり抜くためには、さまざまな困難が伴います。時には、失敗することもあるでしょう。壁に直面したとき自分を抑えて我慢し、意欲を失わず取り組むことが必要です。そのため、自制心や粘り強さ、真面目さなどの非認知能力が大切となります。



「成功は努力の結果」と

お子さんが認識することが大切！

レジリエンスを
伸ばすために

保護者に求められるのは「ヒント」を出すこと

例えば、

お子さんが算数の問題をしていて、難しい問題にであったとき、答えを教えるのではなく、どこがわからないのかを確認して、それを解決する方策についてヒントを出します。

これによって正答を導き出せたとき、お子さんは努力して成功したという体験をします。

こういう体験を積み重ねていくことで、根気強く学習に取り組むことができる力につながります。

◇本や映画でも OK！

～他人の成功体験を知って高める～



自伝的な本や映画に接し、成功した人の経験を学ぶことも非認知能力を伸ばすことにつながります。



「教え育てる」と書く教育は、共に育ちあう「共育」でもあります。お子さんとふれあい、共に楽しみながら子育てができるスタイルを親子で模索してみるのはいかがでしょう。